事業区分　青少年教育に関するモデル的事業

事業名　令和７年度 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探求プログラム」
九州地域探求アワード　地方ステージ

[主　催]　国立阿蘇青少年交流の家
[後　援]　熊本県教育委員会　阿蘇市教育委員会
[期　日]　令和７年 12 月 25 日（木）～26 日（金）　【１泊２日】
[活動場所]　国立阿蘇青少年交流の家
[参 加 者]　熊本県立阿蘇中央高等学校 16 名　鹿児島県立鶴丸高等学校１名
長崎県立佐世保南高等学校５名
[スタッフ]　職員３名、ボランティア４名

1　趣　旨

学習指導要領に定められた「総合的な探究の時間」の目標等に基づいた研修会を実施するとともに、生徒が地域で行う探究活動を顕彰することで、生徒一人一人が社会の担い手となって、社会の成長につながる新たな価値を創造する人材になることを支援する。

2　目　標

（１）参加者８割が、事業全体に「満足」することができる。
（２）参加者８割が、発表会を通じて自身の学びを高めることができる。
（３）出場者の発表を評価・審査し、全国ステージに出場するグループ・個人を選出する。

3　事業展開

（１）研修プログラム

12 月 25 日(木)　リハーサル		12 月 26 日(金)　地方ステージ	
13：00	各施設集合	6：30	起床
13：30	入所式～アイスブレイク	7：15	朝のつどい
14：50	発表練習・リハーサル	7：30	朝食
18：15	夕食	9：20	開会式～発表
19：00	自由時間・交流	12：30	昼食
21：15	入浴（～22:00）	13：15	グループワーク
22：30	消灯・就寝	14：00	閉会式・結果発表
		15：00	解散

（２）活動の様子



【発表会】



【グループワーク】

（３）審査結果（最優秀賞：全国ステージ出場）

個人の部　　：長崎県立佐世保南高等学校「佐世保みかんを使って地域貢献」

グループの部：長崎県立佐世保南高等学校「西海市の未活用資源を使って地域の未来に貢献」

4　評価、成果と課題

（１）評価（参加者の振り返りアンケートから）

＊参加者の８割が事業全体に満足できるか。

＊参加者の８割が発表会を通じて自身の学びを高めることができるか。

	満足 ４	やや満足 ３	やや不満 ２	不満 １
①　**リハーサル・地方ステージはどうでしたか。**	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%
②　**プレゼン発表（他のグループを聴いて）は学びになった**	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%
③　**グループワークは学びになった**	77.3%	22.7%	0.0%	0.0%
④　**満足のいくプレゼン発表ができた**	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%
⑤　**質疑応答では、委員の質問に対して答えることができた**	40.9%	50.0%	9.1%	0.0%
⑥　**今後の活動や進路を考える上でのよい経験となった**	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%

＜対象＞参加 22 名(2025.12.26　全活動終了後実施)

（２）参加者の声

・　今回の地方ステージ・「ちいぷろ」をとおして、自分の探究の課題や可能性、今後の目標が明確になりました。この経験を今後の探究活動へのモチベーションにつなげていきたいです。

・　発表前は不安もありましたが、これまでの取組を信じて自信をもって発表することができました。賞をいただけたことは大きな励みとなり、今後の学びにつなげていきたいと感じました。

・　他校や他班の発表を聞き、地域課題の捉え方や解決に向けた多様な視点を学ぶことができました。総合的な探究の時間の意義を改めて実感しました。

・　審査員や大人の方々から多くの助言をいただき、自分では気付かなかった視点を得ることができました。今後はテーマや活動内容を見直し、探究をさらに深めていきたいです。

・　参加者同士の交流を通して、新たな気付きが多くあり、他地域の課題を知ることで視野が広がりました。

（３）成果

○　発表や講評、他校の取組に触れることを通して、参加者は自らの探究の課題や可能性を自覚し、今後の目標を明確にしている。本事業は、探究活動を次の段階へとつなぐ機会として機能した。

○　法人ボランティアが運営に主体的に参画することで、事業の円滑な実施と目的の達成に寄与した。あわせて、運営を担う立場での経験が、ボランティア自身の成長にもつながった。

○　今年度は、参加者同士が評価や感想を伝え合うカードを作成し、交流ワークショップにおいて相互に交換した。これにより、参加者間の交流が促進されるとともに、自身の探究を振り返り、省察を深める機会となった。

（４）成果

○　発表練習やリハーサル、発表時間の確保を優先した結果、アイスブレイクや交流ワークショップに十分な時間を充てることができなかった。時間的な余裕があれば、参加者間の交流をさらに深めることができたと考えられる。

○　地方ステージ出場決定から本番までの準備期間が短く、十分な準備が整わないまま当日を迎えた参加者も見られた。限られた条件下での実施ではあるが、準備期間を確保できれば、より完成度の高い発表につながった可能性がある。